

敗北篇

映画文学人生論

| | |
|----------------|---------|
| 021) 山椒大夫 森鷗外 | 監督：今井正 |
| 022) 羅生門 芥川龍之介 | 監督：黒澤明 |
| 023) 蟹工船 小林多喜二 | 監督：山村聡 |
| 024) 縮図 徳田秋声 | 監督：新藤兼人 |
| 025) 暗夜行路 志賀直哉 | 監督：豊田四郎 |

「敗北」の文学を——そしてその階級的土壌を我々は踏み越えて往かなければならない

昭和四年九月、蒸気河岸の先生は青べか村から逃げ出したが、その一ヶ月前、改造社の懸賞発表があつた。文芸評論の部で第一席になつたのは宮本顕二『「敗北」の文学——芥川龍之介の文学について』。第二席は小林秀雄『様々なる意匠』。第一席の論文を宮本顕二は次のように結んだ。

「だが我々は如何なる時も、芥川氏の文学を批判し切る野蛮な情熱を持たねばならない。我々は我々を逞しくするために、氏の文学の「敗北」的行程を究明して来たのではなかつたか。「敗北」の文学を——そしてその階級的土壌を我々は踏み越えて往かなければならない」。

芥川龍之介が「ぼんやりとした不安」から服毒自殺したのは、その二年前だ。「敗北」の文学を象徴するような事件ともいえよう。しかし、敗北したのは芥川龍之介の文学だけだろうか。

| | | |
|------|-------|------|
| 山椒大夫 | 森鷗外 | 今井正 |
| 羅生門 | 芥川龍之介 | 黒澤明 |
| 蟹工船 | 小林多喜二 | 山村聡 |
| 縮図 | 徳田秋声 | 新藤兼人 |
| 暗夜行路 | 志賀直哉 | 豊田四郎 |

大正五年、夏目漱石の死後、昭和二十年までに発表された文学作品のうち名作の評価の高い五篇



敗北篇

映画文学人生論

を選び、あらためて読んでみた。

『山椒大夫』は溝口謙二監督の映画では悪人の山椒大夫が厨子王によって処罰される勧善懲悪のドラマになっているが、森鷗外の原作では山椒大夫はますます富み栄える。『暗夜行路』の主人公は暗い夜道を歩き続ける運命にありながらも自分の意志を通し、運命と和解して調和を得る。両作品とも「敗北」の文学とは思えない。

しかし、森鷗外は陸軍省医務局長に昇進しても娘の小堀杏奴からみれば「不遇の人」だった。志賀直哉は日本語で小説を書いて「小説の神様」と呼ばれたのに、日本の公用語をフランス語にすべきとの主張をしたことがある。

小林多喜二の『蟹工船』がプロレタリア文学の傑作として注目を浴びたのは昭和四年。これが宮本顕二の論文では「敗北」の文学を踏み越えていく新しい文学のモデルと目されたようだ。

しかし、革命の勝利を志向する『蟹工船』は発禁処分となり、小林多喜二は昭和八年特高警察に逮捕され、その日のうちに虐殺された。昭和十六年には徳田秋声の人畜無害小説『縮図』でさえ、時局に合わないという理由で連載中止となった。漢学に所謂文学ならともかく、英語に所謂文学なら政治と文学は違う。敗北は文学の一要素だ。踏み越えて往くべきものではないと思う。

誰よりも己を愛した流れ星